

II-3

PLEASE RETAIN
ORIGINAL ORDER

文化財について

一九五三、一〇、廿九

十月十七日の如紙フオーラムに載せられた

「文化財」に関する、エム・オー生の諸意見

は、真に力十人になつた日系人の心の底か

ら湧き出る叫び声としてみ、愉快に読み、敬意

と敬意を表する。

私の属して居た団体も、二、三年前に、不

動産を処分した金額から、謝礼や、見舞いや

らの支出をしたといけず、其後全体的整理は未だ

来の文化に貢献する永久の力
をきするの
ので
あるから生きて使方と
する。

ボーハエクと謂ふ
軽蔑語で呼ばれ
たりする

エクレニヤ人は、
彼等の団体で、
種々不社会

る業をやつて
廣るやうであるが、
自分達同胞

惜其中でアルハ
夕州並エドモ
レトレ大学の二

クレニヤレ二世
大學生のため
に、學生寮を
経

営し、二世大
學生が、
場面の要へ
元氣果に勉勵
出果るやう

に何れとなく
世統をしてお
るやうである
か

、カ+ダの
画家、社会
の、中賢人物
を送り出

す^は使^は不^會は、
永^久其^然然^る光^を孫^に承^ける^事、
頤

州^民お^ハハ^クと^謂は^れ下^る、
此^事業^に

討^して^は、
力^十大^特大^意思^不有^識者^達が^絶賛^をする^の

も^故あ^るか^ない^ある、
私^は工^山、^オ一^氏の

提^案が^実現^され^る事^を祈^りと^して^お願^い申^す、
Y^生